
予知夢

忍野佐輔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

予知夢

【Nコード】

N4903V

【作者名】

忍野佐輔

【あらすじ】

会社の同僚が見た予知夢。

その夢とは一体なんだったのか？

習作の掌編です。

所属サークルHPでも掲載しております。

電子書籍発信サークル【結晶文庫】

「いやあ、昨日は危なかったな」

男の言葉に、職場の休憩室に集まった他二人も頷いた。

「ああ。アイツの言うこと聞いてなきゃ、今頃俺達ガチで死んでたぜ」

「というか……アイツって本当に予知能力があったんだな」

男達が言うアイツとは、同僚の一人のことだった。

同僚の男――山下は一昨日、職場の同僚達にこう言って回った。

『明日は絶対に電車に乗るな。死ぬぞ』

普通なら誰も信じないような戯言。

だが、山下という男はこれまでに、何度か未来に起こる出来事をことごとく言い当ててきた。本人によれば山下は予知夢を見るらしく、それがかなりの精度で当たるのだ。それで男達も、半信半疑ながらも山下の言う事を気にしようという気になったのだ。

そして山下が乗るなどと言った電車は、脱線事故を起こした。

「おーっす」

休憩室へ若い男がやってきた。若い男はどこか疲れた様子で、三人が腰を下ろすソファの空いた場所に座る。

「どうした？ 死にそうな顔してよ」

「いや……本当に死ぬかと思っただぜ」

「はは、どうしたんだ？」

「昨日、乗ってる電車が脱線したんだ」

その言葉を聞いて、三人は押し黙った。

「それって、もしかして……」

「ああ。山下の言っていた電車だ」

「お前……よく生きてたな」

「俺以外はみんな大怪我してたよ。だが、俺はこの通り無傷さ」
そう言って、若い男はケラケラと笑う。

「山下の予知の話は聞き流してたから、実際に脱線事故が起こるまで忘れてたんだが……ま、俺はこの程度じゃ死なねーってことだよ」
つられて他の男たちも「確かに、お前はもうやっても死ななそうだな」と笑い合った。

「おつかれ」

休憩室のドアが開かれ、また一人、男がやってきた。

「おう、山下。一昨日はあんがとよ。お陰で長生きできそうだ」

「ああ、みんな無事みたいで良かった」

山下は心の底からほっとしたような表情を浮かべる。

そして若い男に声をかけた。

「お前は俺の言う事を聞かないで電車に乗るんじゃないかと心配だったんだが……どうやら無事なようで安心したよ」

「いや、乗ったぜ？」

「……………乗った？ 電車に？」

「ああ。別にどうってことなかったぜ」

「こいつ、すげえよな！ 脱線事故に巻き込まれて傷一つないなんてよ」

男達は再び笑い合った。

が、ただ一人、山下だけは無言だった。

「……お前。いますぐ病院に行ってこい」

「あ？ だから無事だって——」

「お前、電車の中で女の人の血を浴びたろ」

「——え？」

休憩室に沈黙が流れる。

山下は深くため息をついてから、若い男に言った。

「俺は脱線事故で死ぬなんて言ってない。血液感染する伝染病にかかって死ぬって言ったんだ」

【完】

(後書き)

サクッと楽しめる作品を目指して書きました。

習作の掌編ですが、楽しんでいただけましたでしょうか。

所属しているサークルでも小説を公開しております。

電子書籍発信サークル【結晶文庫】

<http://kesho-bunko.style.coocan.jp/index.html>

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4903v/>

予知夢

2011年10月9日11時17分発行